

## 昭和電工株式会社 2022年1Q 決算説明会 Q&A要旨

日時：2022年5月11日（水）17:30～18:30

説明者：取締役 常務執行役員 CFO 染宮 秀樹

\*内容は、開催日時点の情報に基づいております。

### 【全社】

**Q 当初予想と対比した1Q実績の進捗を、全社とセグメントに分けて教えてほしい。**

A 売上高、利益ともに、想定以上の円安もあり、計画から若干上振れて着地した。セグメント別には、半導体・電子材料セグメントが売上高・利益ともに上振れた一方、それ以外のセグメントは総じて下振れた。事業別には原料ナフサ価格が想定より高く、製品価格とのスプレッド差が開いた石油化学の下振れ幅が大きかった。

**Q 1QのPMI費用は8億円と、通期予想の77億円と比べると、進捗が遅いが要因は。**

A 事業環境の不透明性が高い中で、PMI費用に限らず、削減可能な経費は絞っている。なお、統合に向けたアクションには影響が出ないようにしている。

### 【半導体・電子材料セグメント】

**Q 1Q実績の対予想比の進捗はどうか。**

A 半導体前工程材料・半導体後工程材料が上振れたことに加え、デバイスソリューションは、HDが今年2Q以降分の需要前倒しから想定を大きく上回ったほか、SiCエピタキシャルウエハーも好調に推移した。

**Q SiCエピタキシャルウエハーの今後の見通しは。**

A 1Qの進捗として、今後の市場拡大と当社製品の優位性の両面について確信を強めた。需要が強い中、生産能力増強が課題と認識している。足元、エピウエハー製造に必要な一部装置の納期が大変に長くなっており、生産能力を短期的に増強できないのが課題。

**Q 原材料価格高騰に対する販売価格の転嫁状況は。**

A 販売価格への転嫁は一定程度進んでいるが、目標未達であり、引き続き交渉を進めていく。

### 【ケミカルセグメント】

**Q 石油化学の1Qが営業赤字となった理由は。**

A 1Qには大分コンビナートの4年に一度の定修があり、元々予想に織り込んでいたが、1月の日向灘地震による生産停止、ナフサスプレッドの想定以上の縮小が影響したため。

**Q 黒鉛電極の昨年4Qからの売上変動を販売価格と数量要因に分けてほしい。**

A 黒鉛電極の販売数量は、昨年4Qから10%強落ちている。需要は堅調であり、生産面では実質フル稼働だったが、コンテナ船等の国際物流の停滞により、出荷が滞ったことが影響した。販売価格は、2017年を基準として、昨年4Qの2倍程度に対し、1Qは2倍強だった。今期の販売価格は、通期平均で昨年実績から3割程度の上昇をめざしているが、エネルギー・原材料価格上昇の影響を受け、フォーミュラ制を含めて価格交渉を継続していく。

以上

\* 本資料の将来見通し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。

- ・COVID-19 拡大が世界経済に与える影響、国際情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート
- ・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前提につきましては、2022年5月11日発表の弊社決算短信をご参照ください。